



# きじむんのとら～ちゅいむにい～ 古文書入門編

## 第8回 古文書にみる数学

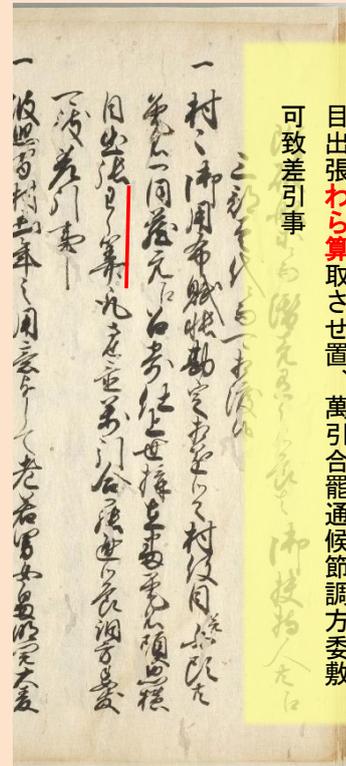
キーワード：八重山島蔵元公事帳、わら算、風樹館

沖縄もようやく秋めいてきたね～。後期も中盤にさしかかって、風邪ひいたりしないように気を付けてよ～。さて、今回は琉球古来の数の記録法について紹介するよ～！

### 「八重山島蔵元公事帳」より

右は当館の所蔵する『八重山島蔵元公事帳』からの抜粋です。『八重山島蔵元公事帳』とは王府時代の八重山島蔵元の執務規程を記した文書です。咸豊7(1857)年に成立した文書を、同治12(1873)年に筆写しています。このなかに「わら算」というものが出てきます。

在番・頭のつとめを記した右の箇所によれば、御用布賦帳の点検が終わったならば、村の役目の者や女頭らを蔵元に呼び、賦帳の内容をわら算で取らせておく、とあります。貢布を課す際に書面で通知するのではなく、わら算で量を記録させていたんですね。さて、このわら算とは何でしょうか？



一 村々御用布賦帳勘定相遂候ハ、村役目并女頭共

筆者一同蔵元江召寄、仕上世構在番筆者・頭・惣横

目出張わら算取させ置、萬引合罷通候節調方委敷

可致差引事

宮良殿内文庫 005

『八重山島蔵元公事帳』 14 頁



琉球大学博物館（風樹館）所蔵 宮古島のわら算

### 「わら算」とは？

左がわら算の例です。わら算とは、王府時代から明治の初めころまで、読み書きのできない人びとが数量を記録するために使用した道具です。税として納める物の数や量を示したり、取引や荷物の受け渡しの記録に用いられました。わらの本数や結び目の違いで数を表しています。

現在では日常生活では用いられなくなりましたが、祭祀の場でその風習が形式的に残っています。旧暦8月の糸満綱引きでは、白銀堂に奉納するミキの量を記すために、今でもわら算が作られています。

もっとわら算を見てみたくなったら、農学部近くの博物館に展示してあるから行って見てよ～。(CY)

### 参考文献

田代安定『沖縄結縄考』（養徳社、1945） 須藤利一『沖縄の数学』（富士短期大学出版部、1972）  
矢袋喜一『琉球古来の数学と結縄及記標文字』3版（沖縄書籍販売社、1982） 栗田文子『藁算』（慶友社、2005）